令和８年度

優れた教育活動表彰

1　学校（４校）

学　校　名	学校長氏名	表　彰　の　理　由
大田市立大田幼稚園	三　國　千　秋	令和７年度「島根県教育委員会人権教育実践モデル園」の指定を受け、実践テーマ（研究主題）を『自分らしさを発揮して、生き生きと生活する幼児の育成～共に育ち合う姿をめざして～』と設定し、子どもたちが安心感をもち、自分の思いを素直に表現すること等を大切にする実践を行った。 その結果、全職員で全園児について話し合い、多面的に捉え、子どもたちを支えてきたことで、一人ひとりが安心して自分を出せるようになり、自分らしさを発揮する姿につながった。また全園児活動の工夫により、年下の子どもは年長児に憧れや安心感をもち、年長児は頼りにされ、優しく接するなど、互いに温かい気持ちが育まれた。家庭との連携にも力を注ぎ、園と一緒になって子どもの自己肯定感を高めることにもつながった。
大田市立第二中学校	高　瀬　良　二	令和６・７年度「島根県教育委員会人権教育研究指定校」の指定を受け、研究主題を『自他を大切にし、支え合う中で、向上していこうとする生徒の育成～人権教育を通じて～』と設定し、これまでの教育活動の取組を人権教育の視点で見つめ直した。自他を大切にし、より良い人間関係を築けるように、アドジャントークや構成的グループエンカウンターなどの人間関係づくりや集団での課題解決といった協働的な学びの場面を設定した。 その結果、職員のスキルアップや授業改善等の気運が高まった。また、生徒会中心に「私たちの約束改定委員会」を開催したことは、生徒主体の校則見直しや全校活動を生徒自身の手で行うことの推進につながった。生徒アンケートでは、「自分の気持ちや考えを相手に伝えることができる」など、学校が育てたい力に関わる項目において、プラスの変容がみられ、ねらいを達成することができた。

学　校　名	学校長氏名	表　彰　の　理　由
島根県立浜田商業高等学校	中　澤　雅　美	商業の学び（知識・思考、ビジネスマナー等）を実践する場として、３年生の「デパート経営班」が中心となって大型販売実習「浜商デパート」を行っている。仕入先・仕入商品の選定は、生徒が行っており、地元の商店・農家・魚屋等を中心に選定している。商品を単に販売するのだけではなく、仕入先の方の「商品に対する想い」を知った上で、お客様に販売をしている。月に１回程度のビジネスマナー指導や、地域の方、特に中学生に興味を持ってもらえるよう、ＳＮＳを活用し、定期的に情報発信をしている。 販売実習を通して、接客に必要なビジネスマナーや商品知識が身に付くことはもちろん、地域資源や地域の魅力について知る機会となっている。仕入先との交渉や生徒同士で意見交換をすることで、コミュニケーション能力が育成され、３年生は、１・２年生に的確な指示出しをすることで、リーダーシップ力が向上している。本校のグランドデザイン「育てたい生徒像」である「ビジネス教育を通し知徳体バランスのとれた人間力を育み、地域の活性化に貢献できる生徒を育てる」を実践できる機会となっている。２日間開催であるため、１日目の販売終了後、商品陳列、ＰＯＰ広告など改善点を見つけ、生徒が主体的に考え、行動する姿が見られ、生徒の主体性や思考力・判断力・行動力が育っている。

学　校　名	学校長氏名	表　彰　の　理　由
島根県立浜田ろう学校	菅　　智津子	学校運営協議会設置をきっかけとして地域と連携した学習に力を入れてきた。 はまろうフェスティバルでは、たくさんの人にろう学校を知ってもらうことを目標とし、積極的な呼びかけやブースの工夫をした。その結果、令和６年度：約200名、令和７年度：約330名の参加があった。地域の方が、聴覚障がい支援機器に触れたり、生徒と直接手話を使った会話を楽しんだりする等、聴覚障がいに対する理解を深める場となった。 また、令和７年度には学校の近隣の水族館であるアクアスと連携し、館内のモニターを活用した手話アバターによる展示物紹介の開発を行った。アクアスの職員より展示物の生態について専門的な助言を受けると共に、地域のＩＣＴ拠点と連携することで先進的な取組となった。その結果、聴覚障がい者が水族館を楽しむために活用され、「文字だけの情報よりわかりやすい」等の感想もいただいた。また、アクアス職員からも評価を受けたことで生徒の自信につながった。さらには、この取組を発展させた企画案は、はまだ産業振興機構が主催するアイディアコンテストにおいて受賞した。 その他に、幼稚部の幼児が食育をとおして出会った地域のお店に買い物に行ったり、高等部生徒が高齢者を対象としたサロンのサポートをしたりする等発達の段階に応じた取組をすすめている。さらに、本校小学部児童と地域の小学校で学ぶ難聴児との交流及び共同学習である「はまろっこ交流活動」に力を入れ、インクルーシブ教育推進にも繋がる取組にもなっている。児童からは、「みんなでもっと楽しい活動をしたいと思います。」等の感想があった。高齢者サロンで出会った地域の方が卒業式の日に学校に来校してくださったり、幼稚部の生徒が食育でかかわった店に家族で出かけたりする等、温かな交流が生まれている。

（注）上記の掲載順は、原則、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校、かつ建制順による。

2　個人（３名）

氏　　名	所属名・職名	表　彰　の　理　由
野津（のつ）　寛延（ひろのぶ）	出雲市立第三中学校 教諭	毎年、年度当初の研修職員会議で緊急対応研修の講師として教職員に対して救急車への連絡の仕方、心肺蘇生、ＡＥＤの使い方を指導している。その結果、教職員が連携した救命救急法や電話で伝える内容を改めて確認することができ、万が一の場合に備える体制の構築ができた。 また、ボランティア活動にも深くかかわっており、出雲市内の様々な団体でボランティアスタッフとして外国人への日本語及び日本の習慣指導、児童クラブの防災教室、避難訓練等を実施している。野津教諭から中学生が参加できるボランティアを紹介してもらったり、自らのボランティア体験を語ってもらうことで年々ボランティアに参加する生徒が増えてきている。
皆尾（みなお）　英宣（ひでのぶ）	島根県立青少年の家 会計年度任用職員	平成27年の奉職以来、艇指導補助及び艇庫管理の業務に携わり、研修生の指導・安全管理面の確保、青少年の家研修支援課社会教育主事の指導技術向上、また湖面活動協力員（宍道湖漁業協同組合より推薦）との連絡調整などに取り組んだ。 小型船舶操縦免許１級を有し、船舶会社等で勤務した経験を活かし、気象条件に応じた運航計画を立て、安全な湖面活動の実施に注力した。 青少年の家の体験活動プログラムの大きな柱である湖面でのサバニ、カッターなどの活動を長年支えると共に、利用する県民の満足度を高め、利用促進に寄与した。

氏　　名	所属名・職名	表　彰　の　理　由
三好（みよし）　良（りょう）	島根県立出雲工業高等学校 教諭	専門科目『課題研究』において、生徒と地域企業（島根県建具協同組合）を結び、地域課題と既習事項を応用させ「カームダウンスペース」を出雲縁結び空港ターミナルビルへ設置する制作を伴走した。既に東京国際（羽田）空港や新国立競技場に設置されていたカームダウンスペースをふるさと島根の玄関口『出雲縁結び空港』にも設け、多様な特性や事情を抱える人々が安心して島根旅行を楽しめるよう、公共施設のユニバーサルデザイン化を提案・実践した。 また、航空機利用前に過度の不安を抱える旅行者がカームダウンできるよう考案された素材選定・設計・制作の過程は、今後の島根県のあり方を提言するものでもあった。生徒は、「誰かのために」働くことの喜び、「人のことを考えて」働くことの喜びを体現し、誠実さを深めることできた。

（注）上記の掲載順は、五十音順による。